

2010年 ISAF 年次会議 レポート

「どうすればセーリング競技をオリンピックの競技として残せるか！」

「470男子、470女子は単独種目として残れるか？」

アテネ ギリシャ

11/4-14. 2010

「どうすればセーリング競技をオリンピックの競技として残せるか！」の大課題に取り組んだ ISAF 会長及び副会長直属の<オリンピックコミッション>（現役選手代表を含む）が五月に開催されたミッドイヤーミーティングで発表したレポートは非常に内容の濃いもので IOC でも大きく評価された。ISAF はその後 IOC との協議も重ね 2016 年のオリンピックにふさわしい種目の提案を出してきた。

その内容はまず絶対必要な種目として次の6種目

- ボード（ウインド or カイト） 男子 女子 使用クラスはトライアル等で選考
 - 一人乗りディンギー 男子 女子 レーザー & レーザーラジアル
 - ハイパフォーマンス 二人乗り 男子 女子 男子は 49er 女子はトライアルで選考
- ボードと一人乗りは <普及国数を増やす>、<オリンピックへの国粋獲得のチャンスを広げる>というオリンピックコミッションレポートの第一、第二の目的の沿ったもの。ハイパフォーマンス（スキップ）二人乗りは<オリンピックを最高峰と位置付け>と<メディアや一般大衆にとっても魅力的かつ迫力のあるもの>をカバーしている。

この提案は非常に多くのサポートを受け、残る4種目を何にするかが焦点となった。

今回 ISAF が提案してきた種目は次の6種目の中から4種目を選ぶというもの。

- 一人乗りディンギー 男子 女子 男子は重量級用にフィン
女子は軽量級用をトライアルで選考
- カタマラン 混合 使用クラスはトライアル等で選考
- 二人乗り（スピネーカー） 混合 470
- キールボート 男子 女子 男子はトライアル選考
女子はエリオット

イベント委員会で投票の結果では <一人乗りディンギー女子軽量級用>と<キールボート男子>が選にもれた。

今回の投票はあくまでも方向性を示すもので最終決定は来年五月のミッドイヤーミーティングとなる。スターはもちろんカムバックを狙ってくるだろうし、各国、各クラスはそれ

ぞれ立場を主張しての提案をミッドイヤーミーティングにぶつけてくるだろう。日本にとっても470級男子および470級女子の復活が悲願であるともいえるが、混合種目としてではなく男子と女子の独立種目として続けて行くことの必要性を建設的な提案として説いていかなければならないだろう。

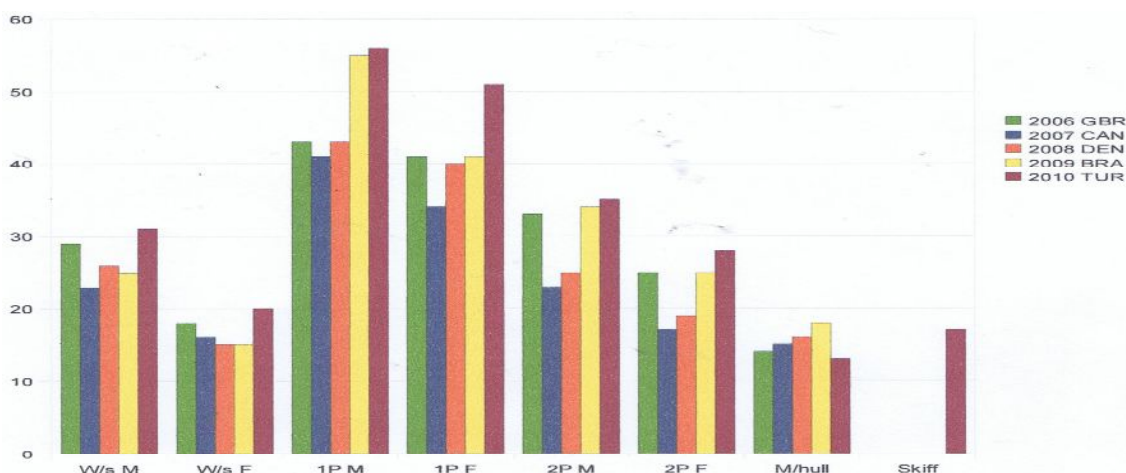
その他の主なトピックは

1. 2010年オリンピック ロンドン大会

ROCOG(ロンドンオリンピック実行委員会)のロブ アンドリュウ氏から詳細のレポートがあり大会へ向けての準備は順調に進んでいる。陸上から観戦できるレース海面が設定され大型スクリーンをはじめとして十分な陸上での状況施設を備えた観客席の計画が実行に移されチケット販売も行われる。チケットが必要な各国協会は早めにWEBから申し込めるようにしていく。選手村を含む陸上施設の準備も順調。本年8月のセールフォーゴールド大会では本番に比べて数倍の参加選手を受け入れて巨大な大会を無事にこなし、2011年8月には本番と同サイズの(各国1エントリー)リハーサル大会を行う。

2. ISAF ユースワールド

40周年を迎える本年のイスタンブール(トルコ)大会では弱めの風域ではあったが、過去最大の60カ国350名のエントリーの大成功大会となり、ユースワールドとしての使命を存分に示すことができた。二人乗りのハイパフォーマンス ディンギー(男女オープン)の29er級の採用は2016年からオリンピック種目として採用されるであろう女子二人乗りのハイパフォーマンス ディンギーへのステップ艇としてエントリーが増えることが期待される。タイトルスポンサーとしてのVOLVOが今回で最後となり、新たなスポンサー契約が急務。下表は種目別参加国の年度別変遷。特に女子一人乗りの参加増が顕著。



(左からRSX 男女、レーザーラジアル男女、420 男女、カタマランオープン、29er オープン)

3. ユースオリンピック

第一回となったシンガポール大会は他競技に比べて大きく盛り上がり IOC のめざすユースオリンピックの目的に沿って、競技だけでなく様々なイベントが催され大好評であった。次回 2014 年は中国の南京、セーリング競技としては風の弱さが心配される。

今回は発表から大会までの期間が短かったので選考等に相当の無理があったが次回大会については早めに-----という意見が多かった。

4. ワールドカップ

セールフォーゴールドが本年のファイナルとして開催されクライマックスとして盛り上げることができた。イベントがヨーロッパに偏っているのでアジアでの開催が望まれている。

5. ルール関係

2013 年のルール変更に向けて多くの提案が出され、ルール委員会で活発な意見が交わされた。(詳細は柴沼ルール委員会委員のレポート参照)

6. オフショア関係

永年の夢であった統一レーティングに向けて、ORCとRORCでの世界共通レーティングシステムがいよいよ実現しそうだ。2011年には両者による新しい組織が作られるという嬉しい NEWS。(詳細は小林オフショア委員会委員のレポート参照)

注目の<ロレックスワールドセーラーオブザイヤー2010>は女子ではRSX世界チャンピオン(スペイン)のバルカ マンションが、男子ではレーザーとエッチェルズ級の世界チャンピオンでISAFワールドカップの年間チャンピオン(レーザー級)にも輝いたトム スリングスビー(オーストラリア)が受賞した。今回の会議はギリシャのアテネで開催され、ISAF に大きく貢献した個人に贈られるベップクローチェトロフィーは委員から始まり名誉会長にいたるまで 50 年にわたり ISAF を盛り上げてきた、1960 年ローマオリンピックのドラゴン級金メダリストである、ギリシャのコンスタンディノス元国王に贈られ、その授賞式ディナーはローマオリンピックで使われたドラゴンが飾られるロイヤルクラブでおこなわれ、感極まって元国王が声を詰まらせる場面もあった。



ローマオリンピックで金メダルを取ったときに使われたドラゴンが誇らしげにヨットクラブの入口に常時展示されている。



ヨランピーターセンISAF会長からベッククローチェ杯を授与されるコンスタンディノス元国王

ISAF イベント委員、カウンスル 大谷 たかを